

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

235号



2021年4月30日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ バイデン米大統領への手紙

アメリカのバイデン大統領宛に、羽田新低空飛行ルートの撤廃を日本政府に働きかけるよう要望する要請文を、羽田問題解決プロジェクトが大村究代表名で送りました。

人権問題に関心の強いバイデン大統領に対して、現在の羽田新低空飛行ルートは、騒音、落下物、墜落、テロ等のリスクに脅かされ、ルート下で生活する住民にとっては、まさに人権問題であり、速やかな原状回復を訴える内容となっています。

マスコミも東京新聞をはじめ、毎日新聞やYOL(3月31日)が読売系としてはほとんど初めてコロナによる航空界の状況と羽田新ルートでの騒音被害を取り上げました。

○ 4月24日(土)シンポジウム オンライン開催へ

「羽田問題解決プロジェクト」は4月24日(土)夜品川区でシンポジウムを行う予定でしたが、緊急事態宣言で会場が使用できず、急遽オンライン開催に切り替えて対応しました。

毎日新聞社会部記者、航空評論家の講演を基調に品川区の住民投票や行政訴訟の件が話し合われました。

杉江さんは15通ものパイロット達の新航路の危険性を指摘した報告を国交省に示していますが、何も反応がないそうです。

会費500円を電子マネーで支払うシステムが採用され、一応現金派にも配慮がありましたが、いよいよ電子マネーの時代になるのか、と考えさせられました。

○ 杉江弘氏との対話集会再び

時 4月24日(土)13時:30~15:30

所 志村コミュニティホール

主催 いたばしの空を守る会

元日航機長の杉江氏が最新の情報を交えて都心低空飛行の問題を解説し、区民の疑問に答えました。会場はコロナ対応の結果、用意した席が丁度埋まる50名ほどの人が熱心に聞き、質問していました。

○ いたばしの空を守る会 常盤台での街頭活動

いたばしの空を守る会は今月5月22日(土)15時からときわ台駅前ロータリーで、都心低空飛行問題についてシールアンケートなどを行う予定です。

○ 石井幹子さんTV登場

もと常盤台住民で世界的照明デザイナーの石井幹子さんの幾つかのTV番組の情報をお知らせします。

4月3日(土)のテレビ東京系「新・美の巨人たち」春の東京アートウオーク『勝鬃橋』

4月16日(金)9:00~10:30NHKBS 石井幹子の「世界・我が心の旅 フィンランド光の夢」。石井さんが1995年(初回放送)に出演した番組。照明デザイナーとしての出発点となったフィンランドを、30年ぶり(放送当時)に訪れた時のもの。

二つとも見逃した方はアーカイブでどうぞ。

また、連休明けには「徹子の部屋」での放映があるようですが、詳しい日時は未定です。

学校は楽しいか？

二〇二五年までに小学校の一学教の定員がやっと三五人になるそうだ。

いじめの問題も落ちこぼれの問題も、少数者ならかなり解決できることが解っていないながら、経済的理由で少人数化よりも施設の統廃合を優先してきたのだ。おかげでいじめの被害者は登校拒否となり、落ちこぼれて一人前の社会人ともなれずひきこもりとなる。結婚もしないから少子化の原因ともなっていくだろう。

本来友達と仲良く遊んだり、教え合い、笑い合うような楽しい所であるはずが、教師の目が届かず、いじめが横行して子供達が行きたくないような場所が今の学校ではないだろうか。

教育現場で深刻なのは子供達の側だけではない。教員にとっても学校が楽しくないのだ。教育を指して選んだ道であるからには夢も希望もあり、子供が好きな人達のはずである。しかし、現実にはブラック企業なみの忙しさだという。また責任が重いにもかかわらず、職員会議は意見を言うことも出来ない上意下達の場で、ただ校長の意向に従うのみなのだ。ドイツやフランスの教員が聞いたらどう思うだろう。年々教職志望者が減ってくるのも道理だ。

すべては日本の為政者の人権に対する感覚の貧しさにある。子供と教師が楽しいと思う学校となるには、いまや根本的な改革が必要だ。日本は昔から貧しくとも教育に関しては何に誇れる国だった。識字率の高さは宣教師達が驚く程だった。人間より経済を優先した結果が楽しくない学校を生み出している。

緊急事態宣言

そっぽを向くわけは？

二度目の緊急事態宣言ですが、都内のどこも初めほどの緊張感がなく、特に若者たちは繁華街へも往来し、路上飲みなども多いとか。

彼らが非協力的なのは、一般の国民にも肯けるところがあるようですが、政府が提案する自粛要請などは、国民がとくに実行していることばかりで、これ以上自粛を求めるならロックダウン（都市閉鎖）ぐらいしか無いだろうと思うからです。

一方、行政の方がすべきことは殆どなされていず、PCR検査の数は一向に増えないし、病床や医療従事者の確保も充分とは思えません。

更に頼みの綱のワクチンもどんどん遅れており、自分の接種がいつになるやら皆目見当がつかせません。

大阪では悲惨な状況が起きており、これが日本の現実とは思えないほどです。大体自宅療養者（実際には自宅放置者。薬も治療も受けていないのですから）が一人を越えている状態はとも先進国とは言えないでしょう。

東京も大阪の後を追うような数値で医療崩壊が迫っています。

それでも菅政権がオリ・パラ開催にしがみついているのは何なのでしょう？何とか開催すればその後の衆議院選挙に勝るとか考えているとしたら大間違いでしょう。現に広島や長野の選挙は三連敗です。

この状況で、まだオリンピックに諦めが付かないとは……

常盤台公園のはなづくり

季節が駆け足で通り過ぎていきます。

サクラもチューリップもつぼみが膨らんだと思ったら、あつというまに満開となり、あつというまに散ってしまいました。気持ちの良い時期は短く、厳しい暑さと寒さだけの一年になってしまいました。

地球温暖化の悪影響を食い止めようと全世界がやっと重い腰を上げた感がありますが、人類が、いや生物が生き残れる限界に間に合うのでしょうか。

やたらと宇宙の開発に力を入れるのは、滅茶苦茶になった地球を見捨てて、一部の者が新天地での生き残りを図っているのでしょうか。SFまがいの空想をしています。

年々、植物にも具合の良い天候に違いがあつて、去年繁茂した植物と今年のは違うのが面白いところです。今年はヤブカラシが活発で、早めに退治しないとツツジが被害を受けそうです。ドクダミやカタバミは常に領土拡大を狙っています。

雑草にまみれてしまいそうな芝生を横目で見ながら、いつかしなければ、と思いつながら通り過ぎていきます。

あちこちのお宅の庭が、シバザクラ・シラン・スズラン・パンジー・バラ・アイリス等々、見られる程で、つかの間の散歩に良い季節です。

